

### 第3回 宿舎事業を中心とした国立公園利用拠点の面的魅力向上検討会 議事要旨

1. 日 時：令和5年3月14日（火）09:30 - 12:40

2. 場 所：霞ヶ関ナレッジスクエア（オンライン会議併用）

3. 出席者：

（検討委員 ※50音順・敬称略）

大西 雅之（鶴雅ホールディングス株式会社 代表取締役）

加藤 久美（和歌山大学教授、武蔵野大学教授）

下村 彰男（國學院大學教授）

田中 明（高山市長）

友井 俊介（一般社団法人不動産協会リゾート事業委員会委員長、東急不動産株式会社ウェルネス事業ユニット ホテル・リゾート開発企画本部 執行役員本部長）

永原 聡子（Deneb株式会社 共同創業者・代表取締役、アトリエラパズ株式会社 代表取締役）

藤木 秀明（東洋大学大学院客員教授）

涌井 史郎（東京都市大学特別教授） 座長

（ゲストスピーカー ※敬称略）

秋山 一夫（弟子屈町観光商工課長）

西村 寛子（株式会社地域経済活性化支援機構 地域活性化支援部ディレクター）

岡 雄大（株式会社ナル・デベロップメント 共同創業者、株式会社 Staple 代表取締役）

岡部 統行（株式会社 Zen Resorts 代表取締役）

（環境省）

奥田直久自然環境局長、松本啓朗大臣官房審議官、細川真宏総務課長、則久雅司国立公園課長、萩原辰男自然環境整備課長、岡野隆宏国立公園利用推進室長、他

（関係省庁等）

加藤麻理子 観光庁自然資源活用推進室長

#### 4. 議事概要

##### 1) 開会挨拶

○開会挨拶（奥田自然環境局長）

##### 2) プレゼンテーション

###### (1) 田中委員プレゼンテーション

###### (2) 秋山氏プレゼンテーション・質疑応答

###### 【加藤委員】

- ・ 温泉熱についてお伺いしたい。今後のマスタープランに温泉熱・地熱利用を盛り込んでいるか。

###### 【秋山氏】

- ・ 元々町役場等で温泉熱は活用していたが、「脱炭素先行地域」にも申請する準備をしている。ホテル等でも温泉熱を活用しており、今後幅広く温泉熱・地熱の活用について検討していきたい。

### (3) 西村氏プレゼンテーション・質疑応答

#### 【藤木委員】

- ・ 理想的には地域が自主的に進めるべきだが、実際は外部から人等が入ってやっと地域の状況が解きほぐされるような状況かと思う。事業が前に進まず苦勞される事例もあると推察するが、その点はいかがか。

#### 【西村氏】

- ・ まさにご指摘の通りで、地域の方と話を始めてから形になるまで半年から1年はかかる。我々の会社は知名度がなく、地域に行っても関係づくりから始まるので、現地で活動をされている地域金融機関や環境省に繋いでいただいて、少しずつ関係を深めていっているのが実態である。

#### 【涌井座長】

- ・ 日本政策投資銀行にきめ細やかな手足がついたのが REVIC というイメージか

#### 【西村氏】

- ・ 我々の理解としては、日本政策投資銀行は比較的規模が大きい事業が対象で、売り上げベースで10～20億円程度以上の一定の規模のある企業を扱うと聞いているが、我々は地域の中小企業が主な対象である。また、政策投資銀行は資金の投下が主な役割だが、我々は資金とあわせて人材も投下しつつ進めていくところに違いがあると認識している。

### (4) 岡氏プレゼンテーション・質疑応答

#### 【加藤委員】

- ・ グローバルマップに載せていくというところで、今後の戦略はどのようなことが考えられるか。

#### 【岡氏】

- ・ 今後の戦略ということではないが、アマンリゾートの創業者が新たにつくる旅館ができたことは発信力があった。一度、瀬戸田という名前がインプットされた中で、デジタルネイティブな方から日々SNSで情報が拡散されると、ANAの機内誌や海外メディア等での紹介も増えていく。最初の起爆剤から、個々の発信が拡がっている状況。現在は、最初の情報発信の次の段階として、ハッシュタグや良い写真の角度など、細かな部分に注意し、伝えたい正確な情報をしっかり発信することに集中している。

#### 【涌井座長】

- ・ 質問ではないが、私はかつて典型的なアマンフリークで、12年前にマラケシュのアマンでがっかりしたのをきっかけにアマンフリークを辞めたが、先般生口島に滞在し大変感動した。誰も取り残さないというコンセプトがよい。超高級旅館から下宿のような値段帯の施設が共存しており、誰もが楽しめる設計になっている。尾道との連携もよく、街のつくり方を含めて感動した。

### (5) 岡部氏プレゼンテーション

#### 3) 論点及び意見交換

○事務局から資料1, 2, 3に基づき、説明

#### 【下村委員】

- ・ この検討会のアウトプットは何で、どこを目指すのか。モデル事業を実施することと、他地域で応用できるようなガイドライン作成の2本立てになるのか。

#### 【環境省】

- ・ 検討会としては、モデル事業を実施するための実施方針を策定することが目的。実施方針に基づき、モデル地域を選定し、具体の事業を行っていくことを考えている。加えて、実施方針がモデル地域以外の地域にも参考になるとよいのではと考えている。まずはモデル事業を成功させるために実施方針を作成するが、そこで得た知見や反省を実施方針にフィードバックさせるようなスパイラルの取り組みも想定している。

#### 【涌井座長】

- ・ 実施方針は、ステップ1の実施方針と、モデル地域における事業を進めながら精査し他地域に参考になるように改良したステップ2の実施方針（ガイドライン）の2階建てにした方がわかりやすいのではないか。
- ・ 資料にはスケール感が書き込まれていないが、イメージはあるか。また、国立公園満喫プロジェクトの地域協議会との関係はどうなるのか。

#### 【環境省】

- ・ 事業エリアは、国立公園の中の一部地域を想定している。利用拠点として宿泊施設があることでさらにより体験ができるような場所が適当と考えている。そのため、スケールの範囲は場所によって変わってくる想定。
- ・ 満喫プロジェクトの地域協議会は公園あるいは地区単位で作っているが、利用拠点はより狭い範囲になる。そこで形成するプラットフォームは地域協議会よりは小さなエリアを対象としたものになると思われるが、プロセスの中に満喫プロジェクトの地域協議会の役割等も位置付けられるよう整理していきたい

#### 【涌井座長】

- ・ 満喫プロジェクトの地域協議会は何らかの位置付けで明確化しておくべき。
- ・ 今日のプレゼンテーションで重要なのは、広域連携とストーリーである。それを踏まえ、広域連携のスケールで事業を進めるのか、特定の地域に限定して進めるのかが重要な検討ポイントではないか。あえてスケールを確定させないという考え方もあるだろう。

#### 【大西委員】

- ・ 事業エリアは国立公園区域よりもう少し小さいスケールと伺ったが、世界に売っていくためには、地域連携・広域連携が必要。先日、とあるシンポジウムでヨルダンのロングトレイルの話があった。600 kmあるトレイル上に5つ星の宿泊施設や遺跡等が点在するという。この大きなスケール感で個々の資源を繋ぐことに意味があると思う。北海道でも、阿寒摩周国立公園、知床、釧路湿原を繋ぐようなロングトレイル構想があるが、大きなスケールのなかに個別地域を位置付けるほうが有効なのではないか。

#### 【友井委員】

- ・ プロセスの中で重要なのは②（候補地毎の検討）の組立てである。単体の自治体として応募するのではなく、複数自治体が合同して応募することにインセンティブを付ける、サウンディングも一方的ではなく、対話形式で行うなど、事業者の適性がわかるような組立てがポイントとなる。

#### 【永原委員】

- ・ 体制作りはできた後が重要であり、何を指すのか、経済的波及効果、社会的効果が見えにくい。絵を描くのはたやすいが実行するのは難しい。面的な開発を引っ張っていけるリーダーが地域にいるのかといった、実行を担保するための基準が必要なのではないか。
- ・ 国が関わっていくメリットとして、お墨付きを与えることで、地域の誤解を解き、外部の者が地域に入りやすくなる点が挙げられる。行政の具体的な役割を踏まえた上で、どこを目指していくのかを検討すべき。

#### 【加藤委員】

- ・ 課題として、広域連携と誰が回していくかの2点が挙げられた。この事業の肝は、広域という体制で保全に基づいた利用・魅力をどう引き出していくのかである。保全と利用の好循環（サステナビリティ）が自然保全の面に寄っている気がするが、意味合いとして利用促進の観点から、広域連携に基づくストーリー性、歴史文化なども含められるとよい。
- ・ 体制については、人が育っていくことが重要。アクティビティを提供していくことを考えると、ガイドが保全と安全管理とインタープリテーションの役割を果たし、その方々の専門性を経済的にもきちんと保証していくことが必要だろう。

#### 【涌井座長】

- ・ 我々の目的は、国立公園の価値を顕在化し、どう地域経済に貢献していくのかにある。そのためには地域と国立公園を一体化して考えていく観点が重要だろう。本日の議論のなかでレンジャーが地域から信頼されており、レンジャーが地域で果たす役割についての指摘があった。また、世界の事例をみれば、公園地域が母都市と一体となって価値を生じさせていることは明らかである。例えばアメリカでは、コロラドスプリングスと、バイルが接続しているし、阿寒摩周でも3つの空港と3つの国立公園、それらを結ぶトレイル、二次交通等を広域的に考えることで地域の真の価値が発揮されるだろう。中部山岳国立公園では、ビッグブリッジ構想を踏まえれば松本空港の整備は高山側にもメリットがあるといったように、広域的な視点で捉えることが必要。
- ・ また、個人的な意見にはなるが、ランドスケープアーキテクトの視点からすると、国立公園の既存利用拠点の再整備では圍繞景観が一番重要で、特別な体験を提供する新たな利用拠点の設定では眺望景観が重要となる。そういった観点からも広域的なものがよい。

#### 【下村委員】

- ・ 広域連携を考えていく上での課題として、国立公園利用に関するブランディングをしっかりと行う必要がある。どの地域でも取り組みが進んでいる中で、国立公園とはどういうアクティビティを提

供している場所なのかを示すことが必要。レンジャーはそれぞれの地域の状況に応じて動くので、国立公園としてのブランディングといった問題は本省の方でしっかり考える必要がある。

- ・ また、国立公園は地域の資源としてエリアマネジメントを考えていくべきで、宿泊拠点はその中心となるべき。これまでの国立公園は地域と切り離す形で行政を進めてきたので、地域の拠点となる方向のビジョンを描いてこなかった。今後はそういった点を重視して国立公園の運営管理を進める必要があり、この中にブランディングも含まれている。

#### 【藤木委員】

- ・ 実施方針については今後整理を進めていくことになるだろうが、総論として地域の体制として、地元の行政を中心に金融機関や関係者の座組がしっかりできているかが重要。

#### 【秋山氏】

- ・ 規制と保護と活用に対する地域の意識がだいぶ変わってきた。なぜ規制をしているのかという目的や、保護していかないと地域振興につながらないという意識を地域全体で共有することが重要。

#### 【西村氏】

- ・ グランドデザインを描いた後が重要である。地域振興は一人ではできないもので、チーム戦に持ち込む必要がある。その際には、各主体の役割分担が重要となる。体制を作って終わりではなく、それぞれのやるべきことを明確にし、作ったマスタープランや体制をどう動かしていくかが肝要である。レンジャーは機運を作っているが、事業を進めていくことは難しいかと思うので、DMCを活用するなど、役割分担をしてどのように始動していくかが重要。

#### 【岡氏】

- ・ レンジャーの特異性は素晴らしい日本の国立公園の文化。また、事後的に網掛けされたことで国立公園内にも、ありのままの生活や伝統が残されている。そうしたことは世界でもなかなかないものであり、事業の大きなモチベーションとなっている。
- ・ 外部者が地域に入っていく際、最初は警戒されるが、第3の目的としての地域を盛り上げる視点を持ち、地域の人々と一緒に作り上げていく視点が解決の糸口となった。第3の目的を持って地域参加型で進めることが効果的ではないか。

#### 【岡部氏】

- ・ プロジェクトの成功・失敗要因はどちらも人との関係性。環境省レンジャーなど中の人を力を使ひ使ってほしい。また、これまで各地域で既に取り組んできた我々のような人たちの知見も活用していただきたい。

#### 【大西委員】

- ・ 本日の発表を聞いていて、南木曾の事例では地球と遊ぶという大きなスケール設定が印象に残っている。また瀬戸田の広げていくよりもどんどん深めていくまちづくりは、これからの観光が目指すべき方向性だと感じた。REVICについては、こういった組織に率先して入って頂ければ大小の組織

が地域に入りやすくなると思う。

【観光庁加藤室長】

- ・ 観光庁では「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり」モデル地域の公募・選定を行っている。これは昨年、高付加価値旅行者の地方への誘客に資する取り組みをアクションプランとして取りまとめたものに基づき、集中的な支援を行っていくもの。全国 10 地域程度の選定を想定して今後公表されるので、この選定地域についても考慮に入れていただければと考えている。

【則久国立公園課長】

- ・ 観光庁を含め他省庁との連携は当然進めていく。国立公園満喫プロジェクトで取り組んできた地域が観光庁のモデル地域として選ばれるのであれば喜ばしい。実施方針を作成した結果として選ばれる地域が、観光庁のモデル地域と一致するかはわからないが、一致した場合には当然連携を図っていくべきと考えている。
- ・ 本日もご意見を頂いた実施方針について、広域連携、ストーリーづくりの重要性はこれまでも認識してきているところだが、本事業を始めるにあたり、スケール感については限定して捉えすぎてしまっていた。広域連携の視点からスケール感は再検討したい。
- ・ 本日の議論でも出ていたように、一番大事なのは人と人のつながりであり、そのつながりの場でレンジャーが活躍していることを認めていただいたものと認識している。ただし、全てのレンジャーがそのような役割を果たしているわけではないと思われ、いただいた意見は現場にもフィードバックしながら意識を高めていきたい。
- ・ 本日もいただいたご意見をしっかりと受け止め、個別の意見は先生方にも伺いながら、実施方針をブラッシュアップしていく。引き続きよろしくお願ひしたい。

4) その他

○事務局から事務連絡

○閉会挨拶

以上